

文献 14

大隈祥弘, 向野義人. 動きに伴う症状を指標とする円皮鍼治療が陸上競技短距離選手の反応時間に及ぼす影響. 日本臨床スポーツ医学会誌. 2011; 19(2): 250-257. 医中誌 web ID 2012000633.

1. 目的

陸上短距離選手に対する M-Test を用いた円皮鍼治療が反応時間に及ぼす影響を検討すること。

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 クロスオーバー (RCT- cross over)

3. セッティング

記載なし。

4. 参加者

大学男子陸上競技短距離選手 7 名

5. 介入

Arm1: 鍼刺激群 M-Test にて陽性所見を示し、指で触れた際に所見が改善した他部位を治療点として鍼刺激を行った。

Arm2: 安静仰臥位群 M-Test を実施後、仰臥位安静を 20 分行った。

6. 主なアウトカム評価項目

M-Test のスコア、反応時間 (pre-motor time; PMT, Electromechanical Delay; EMD, total reaction time; TRT)

7. 主な結果

M-Test; 鍼治療の前後では右下肢の M-Test スコアが有意に低下した ($P < 0.05$)。

反応時間; 円皮鍼を行った場合、EMD が速くなったものの、その他の指標に統計学的な有意差はなかった。

8. 結論

M-Test を用いた円皮鍼による鍼治療は大学男子陸上競技短距離選手の反応時間に影響を及ぼさなかった。

9. 論文中の安全性評価

記載なし。

10. Abstractor のコメント

大学男子短距離選手の反応時間を M-Test を用いた円皮鍼治療により検討した研究である。円皮鍼治療が EMD (活動電位が発生してから実際に動作が始まるまでの遅延時間) にのみ影響した点は大変興味深く更なる研究が期待される。本文中にも考察されているが、全ての対象者において鍼治療の有無の比較をしているものの、ブラインド化されていないため対象者のバイアスは否定できない。今回の成果と課題を踏まえた更なる研究が期待される。

11. Abstractor and date

池宗佐知子 2016. 3. 23